

6. 視覚障害者同士のつながり

(1) 災害に関する視覚障害者のコミュニティ

被災地にある視覚障害者団体会員の方からは、災害に関する視覚障害者のコミュニティを立ち上げてほしいという意見が多くありました。会員以外の方からは、自分に視覚障害があることを知られたくない方もあり、反対の意見もありましたが、災害時に視覚障害者が集まれるような場、孤独になりがちな避難所や、仮設住宅等において、話しやすい環境を作ることが大切です。実際の避難の体験談や、現在被災して苦労していること、また支援情報などを交流し、仲間と同じ話をすることで安心することができます。

また、同じ障害のある人の意見や考えを知ることができ、今後の行政への援助をどのように求めていくべきかについても話し合うことができます。一人で何でも行おうとするのではなく、視覚障害者同士で力を集めてこのようなコミュニティを作り、災害で受けた心のケアをすることができます。

(2) 視覚障害者団体とのつながり

現在、視覚障害者のすべてが視覚障害者団体に加入しているわけではなく、加入している人はほんの一部に過ぎません。災害時にかかわらず、日頃から視覚障害者団体や施設を利用すると、様々なサービスや相談支援、視覚障害者施設を利用することができます。その中で友人関係を持つこと、スポーツ、文化活動をすることができます。この災害時も安否確認については、視覚障害者団体が持っている情報のみで、広く行うことはできませんでしたが、「無事ですか？」と、いう電話をもらった多くの会員が嬉しかったと言っています。視覚障害者と行政、団体や施設がよりつながることで、普段の生活支援から、災害時の支援をより良いものにできると思います。

災害時には、行政と視覚障害者団体が視覚障害者のために活躍できるようなシステムをつくり、団体の重要性を理解してもらい、より多くの方に利用していただくことが必要です。視覚障害者、行政、団体や施設が連携し、地域の視覚障害者のことについては、視覚障害者団体が把握をし、常に団体において支援活動や連絡、援助活動が行える体制づくりについて、地域で真剣に検討していくことが求められています。

